

事業活動実績報告書

施 設 名	幼稚園型認定こども園新小岩ちぐさ幼稚園
教 育 理 念	大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくしなやかに生き抜く力。夢と希望をもって努力し、豊かな人生を歩める力を育てる教育

1 事業名	SDGsへの意識の芽生え
2 実施期間	令和 7年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月 31日

3 取組概要	（取組日） 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【募金活動】 今年の募金活動は、夏の動物園イベントの時、秋のワークショップイベントの時、冬のお遊戯会の時と3回に渡り行いました。事前にユニセフ絵本「ユニセフとえがおのひみつ」を読み聞かせたり、世界に関する図鑑等で調べました。募金はチラシを配布して、保護者の協力もしてもらいました。また、例年の屋台ごっこの際、募金Boxを作ると、玩具お金ですが箱にお金が入っていました。 	
	（取組日） 令和8年 1月 26日 ～ 令和8年 1月 26日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【ユニセフハウス訪問】 1年間の募金活動のお金をユニセフハウスに届けに行きました。ユニセフハウスでは、水瓶を持つ体験や、栄養失調の赤ちゃん人形を抱く体験、レプリカの銃を持つ体験等を行いました。小グループに別れ、ボランティアの人の話を聞き、同じくらいの子どもの労働や、綺麗な水の大切さ等の話を聞きました。募金の受け渡しでは、1年間の頑張りを感謝の意で返してもらいました。 	
	（取組日） 令和8年 1月 26日 ～ 令和8年 1月 26日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【海のゴミ問題】 絵本で海のゴミ問題について学び、分別について学びました。水族館では、開園前の時間を利用し、大好きな海の生き物の生態を学び、係の方からゴミをその辺に捨てないでとのお願いがありました。園に帰ってからは、ゴミの分別の練習を行いました。 	
	（取組日） 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【土作り】 畑やプランターに入れる土作り。防災備蓄品を分解したもの、園の木の枝葉を細かくしたものに、寝かした落ち葉を自分たちで準備し、牛糞等を混ぜ込んでいます。5-6月は、土に混ざった根っこを取る作業をして、給食の残飯を入れ発酵させ、秋頃には葉っぱを集めて出かけて園庭隅で腐らせ、冬には選定した枝葉を細かく砕いて土に混ぜ込む作業をしました。 	

3	取組概要	(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【栽培】 ジャガイモ、サツマイモ、マリーゴールド等は先生が栽培を決定しますが、自分たちで計画を組んで種まきや植え付け、土盛り等を行います。近くの農園で月1回クラス毎に農作業をして、野菜の成長を見守り、自分たちで作った肥料を追加していきます。プランター栽培のお花は、夏休み中も預かり保育の子たちがお世話を続け、枯らさないよう分担し合います。	 
		(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【栽培の発展】 野菜栽培中には、もっと沢山の野菜、もっと他の種類の野菜を育てたくなり、図鑑で調べたり、プランターを追加して栽培を開始しました。どんどんお世話が大変になりますが、自分たちで始めたことは最後まで頑張って育てようと思います。今年は最終的に、枝豆、ミニトマト、イチゴ、キュウリ等を育てました。ミニかぼちゃは実がならず失敗、茄子は暑すぎて枯れてしまいました。みんなでどうしてかを考えました。	 
		(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【作った野菜】 作った野菜は調理して食べます。お芋を蒸かししたり、ジャガイモをカレーにしたりしました。また、余った野菜は、保育参観で保護者に配ったり、子ども食堂へ寄付をして有効活用しました。子ども食堂の方に、どんな人の役に立つのかのお話を伺いました。その後、運動会の景品で余ったお菓子、クリスマスで貰ったお菓子等、野菜以外にも進んで寄付ができました。	
		(取組日) 令和7年 9月 20日 ～ 令和7年 9月 20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【地域開放ワークショップ】 地域への開放イベントとして、フェアトレードコットンや間伐材を使用したワークショップを行いました。フェアトレードや間伐材には、児童労働や森の維持に関する資料を展示して行いました。在園児だけではなく、小学生や地域の子育て世帯も多く参加していました。	
		(取組日) 令和8年 2月 7日 ～ 令和8年 2月 7日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【地域開放防災フェア】 園の防災備蓄品の展示、炊き出し体験、人形をジャッキアップで助ける体験を行いました。加えて、葛飾区防災課と協力し、すい坊・ちい坊による、消火放水体験や水陸両用車乗車体験を行いました。	

3 取組概要	(取組日) 令和7年 4月 1日 ~ 令和8年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること    【環境配慮の玩具】 プラスチック製の玩具から、木製の玩具へ変える取り組みは、3年目になり多くの木の玩具が導入できました。現在大半がアルミ製の竹馬のところ、今年は本物の竹で作られた竹馬を準備しました。また、玩具だけではなく、ロッカーのネームプレート等身近な物を間伐材で製作し、間伐材が身近になってきました。	
	(取組日) 令和7年 4月 1日 ~ 令和8年 3月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【小学校との連携】 小学校との連携では、新小岩公園での自然物収集を小学校と一緒に行いました。小学生に触発されて普段と違う発見をしたり、収集をしたりしました。また、小学生が園に遊びに来たときは、普段小学校で遊んでいるものを披露してくれて、珍しそうにしていました。小学校へ遊びに行った時は、小学生がランドセル等優しく道具の説明をしてくれました。	 
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

計画時

施設名		幼稚園型認定こども園新小岩ちぐさ幼稚園									
教育理念		大地に根を張る“千の草”のように、どんな環境にもめげずに、逞しくしなやかに生き抜く力。夢と希望をもって努力し、豊かな人生を歩める力を育てる教育									
事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可)。最も当てはまるものには◎を選択してください									
		健康	○	人間関係	○	環境	◎	言葉	○	表現	○
1 事業名		SDGsへの意識の芽生え									
2 事業概要		・持続可能な社会の実現を担う子どもたちへ、SDGs教育、とりわけゴミの削減やリサイクル、エネルギー等に関する問題を通じ「もったいない」という意識を芽生えさせるため、自然体験を中心に遊びの中で経験し、さらに貧困や多様性等の高度な分野への理解に取り組む。 ・NPO団体、連携施設、子育てひろば、小学校、他の葛飾SDGs宣言企業等との連携を模索し、協力してSDGs教育に取り組むことで広がりを持たせ、在園児のみならず、地域で問題に取り組むことを考える。(パートナーシップでの目標達成) ・継続してSDGs教育に取り組めるように、SDGsの基本的な知識を職員へ習得させるとともに、各分野の知見を深める研修を行う。									
3 対象学級(クラス名) 対象人数		全クラス・子育てひろば対象(クラス名:)								70 名	
4 実施体制		取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 <人的資源> ・計画立案(SDGs研修受講済3名、ECO検定1名)、自然体験(担当木育インストラクター2名・保育ナチュラリスト2名)、NPO団体窓口(昨年担当者) ・その他(SDGs関連研修受講済4名、子育てひろば担当、幼小連携担当等) <環境資源> ・区の貸し出し農園(2年目)、We Support UNICEF賞受賞、葛飾SDGs宣言企業、子育てひろば「すくすくひろば」設置園 <過去実施実績> ・ユニセフ募金活動、どんぐり貯金(2024年12月で廃止)、NPO団体への物品寄付、地域企業との取り組み、畑の野菜栽培(4年目)等									
事業後		事業実績から推測される効果や改善点等 ・昨年の自然体験系研修や環境設定の研修により、野菜の育て方を伝える方法や、自然物での遊び方に広がりを見せている。例えば、昨年購入した丸太椅子。木の皮の部分が剥がれているのを危険として、通常、剥がしてサンディングをすることで、見守りつつ木の皮を剥がしたり、それでマモゴトをするに任せたりと、決して教えるだけではない見守る力で、書ききれない幅広い経験を得ている。SDGsには、自然環境だけではなく、食育、身体作り、科学実験等、多岐に渡る研修が必要ではあるが、園として継続的にSDGs教育を行うにあたり、徐々に教員個々の能力が付ききている。また、当園だけではなく、例え転職をしても、どこかで質の高い保育を行えるという園の枠を出た効果もあると考えられる。今後も研修に力を入れて行きたい。 ・ユニセフの賞登録や葛飾SDGs宣言については、連携企業を見つけたり、異業種での取り組みを強化したりとの目的があったが、目下連携においてはあまり効果を感じられない。簡単に連携企業を見つけられるかと考えていたが、そもそも交流する機会がなければ、どのように連携できるかが未知数であった。ただ、同じくSDGs宣言をしている保育園から声がかかることもあり、どのような取り組みを行っているかの情報を得ることができた。企業と異なり、企業イメージ等を目的としていない分、他施設との交流を深めて行きたい。 ・昨年までに揃えた環境への配慮玩具や木製玩具に加え、今年は竹馬等も揃えたことで、一言で言えば「ワイルド」な遊びを活発に行うようになってきた。また、枝ミキサー機も揃え、身近な資源が土に変わる様子を見る等、自然環境に対する備品が揃い、継続して事業を行えるようになった。									
5 事業のねらい		・中学や高校へと進学するにつれ、各教育機関が強化しているSDGs教育。語学教育にしる科学知識にしろ自然体験にしろ、将来を担う機関が必ず子どもたちへ伝えたい目標、その学問を学ぶ際の目標の一つとなっている。本事業では、世界共通で全世界一致の見解で、しかし2030年までに全てのターゲットで達成が見えないこの問題について、遊びを通すことで幼児期から体感し、将来子どもたちが自分で考えなくてはいい時に、経験により考えられる力を身につけることを目標とする。 ・活動を通じて、幼児期に育て欲しい10の姿ほぼ全てを培うことができるように、それぞれの活動を関連付け計画する意識をし、例えば、SDGsアイコン等から標識への関心へつながるような配慮する等、詰込み的受動的にならぬよう気をつけて、楽しく主体的に10の姿を養う。 ・環境配慮玩具や木製玩具、自然物工作等の在籍する園児のための資源を、地域の子育て世帯のために利用できるものは利用する。また、地域の同じSDGs宣言企業との取り組みを行う。この2点から、園の垣根を越え、地域と子育て世帯へのSDGs普及を見込む。 ・ゆくゆくは自園のみの資源で事業の持続が可能になるように、引き続き人的物的資源の質の向上に取り組み、カリキュラムの内容を改善して教育計画を確立するように、研修や教員の自発的な発案による挑戦的試験的行事の取り組みを行う。また、それらを経験した園児保護者が、小学校以降のSDGs教育に中心となって協力できるような理解を促す。									

	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・将来必要となってくるであろうSDGsの考え方を、すんなりと受け入れられる土壌作りという目標は、知識等の詰め込みではなく、体験や遊びを中心とした活動を目的としたもので、ねらいとしては適切であった。 ・募金活動を中心とした他者へ対する共感や思いやり、環境配慮玩具や自然物工作活動等を中心とした環境へ関する意識、畑作業や土作り活動を中心とした食に対する興味等、それぞれの個別的なねらいはあったものの横断的に考えることができた。野菜作りで健康に関する領域を育てつつ、その過程での土作りで身の回りの資源を活用するよう環境の領域を育み、収穫した野菜の寄付等では人間関係について思考したりと、一連の活動の中で複数の領域に関われるよう配慮できた。 ・継続的に質の高い保育を維持する目標についても、人材育成を中心とした人的資源の育成が、当園としての持続可能な保育環境を持つことができることに繋がるのか疑問があるところではあるものの、人材は地域の宝でもあり、幼児教育全般から見ると単園だけの設備備品として残すよりも有効であると考え、現状離職者が出て他の施設での活動に与える影響を検証できない以上、効果を信じるものである。 ・SDGs的思いやりを子どもたちの根っこの部分に植え付け、言葉や人間関係、環境等の領域において高い効果を将来に渡り得られるようにという基礎的な部分は変えないものの、電気を消す、ドアを閉める、ゴミを拾う等、小から大へねらいを設定する必要が今後はあると感じた。
計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・募金活動(4月～翌2月)※関連絵本の読み聞かせで世界の状況に気がつき、募金という活動を知る。その後、募金活動には園内外で自発的に取り組み様々な経験をし、最終的にユニセフハウスに訪問し募金することで、本当に必要とされていることを行ったという実感を得る。 ・ゴミの削減(5月～翌3月)※廃棄物を使った工作、分別指導、絵本読み聞かせ等、年間を通して活動を行う。行事としては、プラ玩具回収と環境配慮玩具の普及(年間)、水族館での海ゴミ問題の講習(2月)、企業とのタイアップイベント(2月)を行い、ゴミについての現状を把握し考える機会を作り、使用した物に対する責任を感じられるようにする。また、野菜作りを行い、ゴミ問題だけではなく飢餓などの課題を縦断して考える。 ・自然環境の維持(5月～翌2月)※園児と地域子育て世帯に向けた自然工作教室(9月)、園の製作物の素材のエコ化(年間)を通して、自然物に対する親しみと、自然と共生ができるための意識を身につける。公園、畑等の身近な自然体験と絵本や図鑑による自然等、都心でも簡単にできる自然体験をする。 ・人材育成研修(年間)※従来の研修に加え、ECO検定やエネルギー管理士等、資格の取得を狙い、人材の強化を深める。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 5領域も10の姿も、出会わなければ発生しない感情をベースにしていると考えており、その感情に波風を立てること経験を沢山することを目指している。最近では「センスオブワンダー」と認識されているが、ゴミに問題意識を持つも、飢餓に同情心を抱くも、エネルギーを節約しようとするも、アリの行列の興味を持ち、蝶々の行方に夢中になり、花を見ては千切り、土を見ては掘ってみる等の探索経験が育たなければ発生しない感情と考えている。その経験が、やってみたいという主体性になり、主体性と外部環境の調整能力になり、見通す力となると考えている。当園では、経験できる体験を増やし、SDGsの考えを受け入れられるようにしてきている。例えば、定期的な郊外園(東京外)との交流や訪問、頻繁な園外保育、素材(ハチの巣やカマキリの巣等)の持ち込み、絵本交換等沢山ある。今回の事業では、園の積み重ねてきた子ども達の感性に、募金やゴミ問題といった本来誰しもが無関心でいられない内容を上乗せし、更に感情を揺さぶることで、自分で感じ、考え、調べて伝え合うといった主体的で対話的な保育を行い、小学校へとつなげていく。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・SDGsが幅の広い分野であり、子ども達の意見や関心によって、取り組む方法が変わりやすいという問題に直面している。ただ、3年目でもあるため、募金やリサイクル、ゴミ問題に関する取り組みは安定して行えるようになった。今年は、地域の子育て世帯との連携、小学校との連携、地域の葛飾SDGs宣言企業との連携等、他団体との連携を実施して体制を確立するとともに、色々な人が問題意識を持っているということを経験してもらいたい。 ・最後の年となるので、継続できるよう、教員のスキルの向上にも力を入れ、研修の他に検定や資格などの目に見えるような成果を得られるような研修を実施していく。 ①地域の子育て世帯との連携 昨年からの廃材間伐材ワークショップイベントに加え、子育て広場でのSDGs取り組みの説明や取扱おもちゃへの理解、寄付イベントなどにも参加を呼びかけて、取り組みの強化をする。 ②小学校との連携 小学生の自由研究への協力や職場体験に加え、小学校でのSDGsイベントへの参加や、小学生までもを対象にした木育イベントを行うことで連携を強化し、可能であれば学校間での取り組みとして確立させる。 ③地域の葛飾SDGs宣言企業との連携等 宣言企業を探し、賛同してもらった企業と、廃材イベントやフェアトレードイベントを行ってきたが、普段の保育への廃材品提供等、簡単にできる取り組みも取り入れ連携しやすさを強化する。 ④他団体との連携 昨年までは、NPO法人(国際的な物品寄付団体)や、ユニセフ等との連携があったが、子ども食堂への余ったお菓子の寄付等も行っていく。

	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・継続して行っている活動の中で、募金活動やユニセフハウスへの訪問、水族館でのSDGs講習等の行事的活動は、ゴミに対する意識や他の国の子についての話しが出たりすることで、例年通り安定した効果を感じている。地域へ開放した廃材工作イベント等の毎年内容を変えるものは、実施する内容により受け取られ方が違うので安定しているとは言い難いが、今年のフェアトレードコットンを使った工作や、葛飾区と協力した防災イベント等も、地域の子育て世帯からも好評で、園児たちも大いに楽しんで行えた。ただ、毎回の企画については窮してしまうことがあるので、やはり葛飾SDGs宣言企業等との情報交換で有意義なヒントを得られると良いかと思う。 ・身近なもので堆肥を作り、自分が選んだ苗を育てる活動は、喜びやありがたみに繋がり、食べ残しが減った。また、栽培から、食に関する一連の流れが、自分のこととして考えられるようになった。また、堆肥を作る際に残飯が分解する速度に触れ、利用できるから残して良いから利用できるけど残さない方が良くと考えが変わって来たことから、土作りから栽培、食をするまでの一連の流れをセットで行うことが大切と考える。 ・自然物を利用した工作や間伐材を用いた製作は、ゴミの別の利用方法の発見に繋がり、工夫する大切さに繋がった。製作等で使用した紙の端材を、もったいない紙と呼んだり意識するようになった。 ・人材育成の為に研修については、継続的にSDGs教育を実施していく為に必要であるが、例えば飢餓についての認識が、道徳性の芽生えや社会生活とのかかわりに繋がるように系統立てて説明できるよう、従来の幼児理論の研修も疎かにしてはいけない。
計画時	7 環境構成例	＜募金活動＞ ・絵本による啓蒙で、命の事、他者の存在、他の地域の事等の存在に気がつかせていく。年中組からは、実際の募金活動やリサイクル活動等に親子で参加できるように、家庭と連携して進め、年長組からは、子どもたち自身で募金という目標に向け行動する活動をする。募金箱は常に設置して、お便りでも状況をお知らせしながら取り組み、最終的に年長組によるユニセフハウスへの募金寄贈行事を行い達成させる。また、年間を通じリサイクル回収寄付やワクチン貯金も行い、様々なタイプの募金活動があることを気がつかせていく。 ＜ゴミの削減＞ ・絵本による啓蒙と同時に、給食の食べ残し量も計って意識をさせ、身近なゴミの削減を意識させる。水族館での海のゴミ講習、博物館での水の大切さや、森林の役割等の話しを聞くイベント、分別体験等を定期的に準備して、飽きずに取り組めるように配慮する。工作等に使用する素材の一つひとつに、廃材や間伐材等のエコな物を使い、自己の表現活動や、創意工夫する場面でも不必要に使いすぎるなどへの意識をつける。ゴミ削減の分野になるかはわからないが、地域の企業や小学校と連携しSDGsの共同した取り組みを行う。 ＜自然環境の維持＞ ・四季を意識させるように、自園のナチュラリストを活用し、自然物工作を行っていく。工作は、年間数回、地域の子育て世帯にも開放するようにイベント化し、幅広い年齢の子どもたちにも楽しめるようにする。また、子育てひろばでも自然物工作イベントを実施する。自分のロッカーや下駄箱のネームプレートに木材を使い、自分で作ることを代表とした木製品活用で、木の物に対する親しみを持たせる。園外保育や遠足を通じ、自然の環境がより豊かな場所の足を運び、子ども達による様々な気づきを遊びの中から発見できるように、落ち葉や丸太等の自然物での遊びを行う。 ・飢餓、食育、ゴミ削減とも連動するように様々な話しを聞いたりしながら、近くの区民農園を借り、自分達で野菜等を育てる。 ＜人材育成＞ ・教員自ら自発的に興味ある分野を学べるように、研修の紹介も行うが、SDGsを主題とした自分の受けたい研修にも目を向けられるように案内をしていく。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・当初、募金活動については、リサイクル回収や、ワクチン募金等の複数の実施をする予定であった。4-5月に慣習したリサイクル品の保管場所がなくなり今年度のリサイクル回収を断念したり、通常の募金について話し合うのと同時に、ワクチン募金についての導入が難しかったりして断念することがあった。例年通り、ユニセフ学校募金をしっかり行うようにすることに重点を置くように変更せざる得なかった。 ・絵本によるゴミ削減の導入、水族館での講習、分別体験等、どれも子どもたちがちよっと先まで考えられることに繋がった。また、廃材製作等での工夫で、使うことの責任や物を工夫して使うという意識が育った。 ・作物を育てる経験は、土作りから始めたことは、大きく子どもたちの興味に貢献した。食べ物から肥料を作ることや葉っぱや枝からも肥料ができること、牛や豚の糞から肥料を作ること等、印象深かったようで自分たちでどんな物が土の栄養になるかを調べることとなった。 ・ロッカー等の備品に間伐材を使用したり、木製の玩具を整えたりと木に対する親しみを育成してきた。それに加え、自然物の工作や収集により、五感を通じたかかわりや観察、集める等の活動、そして活用するという流れができた。 ・教員自体も様々な研修により、SDGsを通じた研修に取り組むことができた。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・募金活動を通じて、自分以外の他者、自分たち以外の他の地域という概念を知り関わることで、自分の存在意義を感じ役に立つ喜びを知る。また、他の地域のおかれた状況を知ること、自然や生命の尊重、規範意識等「10の姿」を縦断する形で育む。そして、自分たちの意見が反映された活動にすることで、話し合いの必要性や協調する重要さも経験し、やり遂げることへの達成感も経験する。 ・工作に使われる材料に、何故廃材が使われるのかを知り、ちょっとした工夫や方法の変化で出来ることがあると学び、普段の遊びや生活で、今あるものを工夫して楽しむ、生活するようになる。 ・ゴミを資源として捉える為の体験をし、その手段を学んでいく段階で、社会でゴミの削減に取り組んでいること、公共のルールがあること、自分たちが出来ることが役に立つこと等を知る。また、それらの行動の結果、自分たちの夢が叶う明るい未来を想像できるようになり、見通す力をつけ、普段の生活の中で、この後どうなるを考えて行動しようとする。 ・どんぐり等の素材での工作を通じ、自然物を利用した工夫や豊かな発想、表現力を育み、自然への親しみを持つようになる。また、身近で有用な備品の作成により、生活の中で活用されている自然物やエネルギーの大切さに気がつき、大切に扱おうとする。 ・古くからある「もったいない」が、規範意識だけではなく、理由があつてのことだと理解し、自分で考えて行動できるようになる。工作や分別活動で、再利用、削減、不使用等の具体的な行動例を知り、物作りや行動での創意工夫する力を育みながら、自立心や協同性を培うことで、問題に対する解決を様々な面から考え、将来多くの人と協力して行動できる基盤になる。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・募金活動や海のゴミ問題、間伐材の利用等を通して、さまざまな問題を自分のこととして主体的に捉えられるようになり、その活動を通じて、見通しを持つことや、相手の立場になって行動すること、あるものを工夫したり節約したりすること、生命の尊さを学ぶことができた。間伐材は、森を維持する為に間伐された木材の再利用としてだけではなく、木材との触れ合いともなっていた。また、海のゴミ問題は、ゴミの分別意識はもとより、水道の節約意識や節電意識等にも繋がりが、将来に渡り恵み豊かな生活を確保できるように身近な所から取り組めるようになり、生命の尊さを感じられるようになった。 それに加え、全体的に自分の思いや感想等を伝え合う姿が見られるようになった。 ・畑作業については、特に土作りで、様々な物を混ぜ込んだ経験から、もったいないから紙を混ぜてみようとか、クラスのゴミを混ぜてみよう等の発想があり、科学実験的に5箇所に穴を作り楽しみながら土を作っていた。飛躍かも知れないが、STEAM教育的な要素も感じられた。育成や収穫を通して、食に対する興味を培い、作物の寄付等を通じて募金活動のように、他者を思う心を培うことができた。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 当初よりSDGs教育に関しては幅広く、5領域のどの部分になるかを明確にできないという考えはあった。野菜作りは、見通しをもった計画や行動に繋がりが得られ、自然と関わり生命の大切さを学ぶ機会でもあり、自分の力で行う工夫にもなる。またそれは、食べ物や無駄にしない、肥料等の工夫、世界の食事情等、いわゆる持続可能な開発の為の教育に繋がっている。募金活動により社会生活との繋がりを意識したり、自然体験により様々なことに気が付いたり、飼育によって自分の責任を感じたりと、まさに幼稚園教育の延長上にSDGs教育があることが感じられた。 唯一課題として感じられているのが分野が多岐に渡ってしまい、どの分野も広く浅くになりがちであるという点である。従って、その中でも、土作りから食をするまでの一連の流れを体験する野菜作り、年間の募金活動とユニセフ訪問、脱プラスチックを通じた木材への親しみ育成は、当園ならではの方法であり、今後も拡大していきたいと考える。土の中で栄養となるものは何かを考え工夫し、責任を持って野菜を育て、出来た野菜は食すれば寄付もする。環境分野の自然生命の関わりや社会生活との関わり、健康分野や協調性等の人間関係分野においてならず、表現分野の思考力や工夫等も網羅する。野菜の育成の前後、土作りと出来た野菜の行方を充実させていければ考える。ユニセフ募金は、従来の社会との関わりや道徳性の芽生えに加え、言葉による伝え合いや数や図形を意識した言葉分野についても念頭において活動できるように、募金の集計や、募集する際の言葉等にも重点を置いて、もっと多様な場での活動をして行きたい。木材への親しみについては、丸太関連や木製備品や木製玩具等を拡大してきた面、地域の子育て支援施設である面等からも、順次拡張して、より五感を通じた教育ができるように発展させていく。 最後に、やはり保育は人材なくして成り立たない。自然分野や体育分野への研修を中心に実施してきたが、より幼児教育と結び付けるように、幼児理解の研修と一緒にSDGs関連研修も実施していきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。